

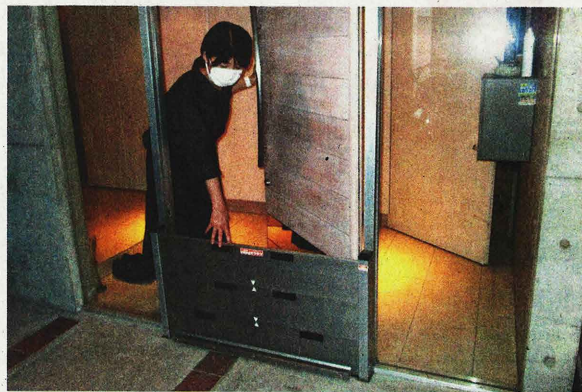
豪雨や台風などによる浸水被害が近年、各地で相次ぐ中、戸建て住宅で止水板や止水シートが対策の一つとして注目されている。水害に強い住宅の開発も進んでいる。

広島市の会社役員、黒川京子さん(55)は8月、大雨の予報が出た際、自宅玄関の外側に止水板を取り付けた。ドアの縦枠に沿って設置した2本のレールに、アルミ製の板3枚をはめるタイプで、深さ50センチまでの浸水を防ぐことができる。玄関の外は深さ20〜30センチまで浸水した。止水板がなければ、ドアの下などから水が

# 住

## 戸建ての水害対策に注目

黒川さんは玄関からの浸水を防ぐため、大雨の時には止水板を取り付ける(提供写真)



- 止水板や止水シート
- 高水密パッキンの住宅も

くらし家庭

入り、床上浸水していたと思う」と語る。

自宅は低い土地にあり、7年前の豪雨で床上浸水の被害に遭ったことから、「水害対策をしなければ」と設置を決めた。選んだのは、「鈴木シャッター」(東京)の止水板「オクダケ」(参考価格税込み24万2000円)、工事費込み)。

同社によると、近年、戸建て住宅への導入や問い合わせが増えている。自宅が低い土地に立っていたり、過去に浸水被害に遭っていたりする人が、門扉や玄関、その他の出入り口の

前、車庫の開口部に備えるケースが目立つという。

佐賀市内の女性(50)は自宅の車庫用に、「文化シャッター」(東京)の止水シート「止めピタ」(参考価格税込み15万円)、工事費込み)を購入した。シャッターの下部と地面に、マグネットや重りでL字に固定し、水が入るのを防ぐ仕組みだ。「大雨になると近くの道路が冠水し、被害に遭うのではないかと怖さを感じる。設置が簡単」と話す。

各地で毎年のように、河川の氾濫や、大量の雨水が市街地などにたまる内水氾

濫が発生している。水害対策に詳しい「SOMPオリスクマネジメント」上席コンサルタントの金山直司さんは「全国各地でも起こり得るとの認識から、自宅の水害対策への意識が高まっている」と指摘する。

建て替えなどの際に、対策を施す動きも出てきた。住宅メーカー「一条工務店」(東京)は水害に強い「耐水害住宅」を開発し、昨年からの販売を始めた。鍵穴を高い位置に設け、玄関ドアや窓に水密性の高いパッキンを採用するなどして、浸水を防ぐ。施工には追加料金が必要で、延べ床面積約115平方メートルの住宅の場合、約46万円から。今年9月末時点で、約140

0棟を販売した。自治体が作成した「ハザードマップ」が、洪水の発生時に予想される浸水の深さを示している場合などは、建て替えの際に敷地をかさ上げするといった対策も検討できる。土地や住宅を購入する場合は、国土交通省が昨年8月、宅地建物取引業者に、水害ハザードマップでの物件の位置を顧客に伝えるよう義務づけたことから、参考にしたい。

### 過信は禁物

金山さんは「住宅の水害対策は大切だが、万全な策はない。過信せず、万が一の際は、命を守る行動を優先する必要がある」と助言する。